第11号様式（第12条関係）

事業活動実績報告書

施 設 名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分 （5領域）	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための稲作活動
2 実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

3	取組概要	（取組日） 令和6年4月日 ～ 令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 田植えの準備です。一面に咲いていたレンゲソウはきららにあげて、残りはみんなで抜きました。耕すのは機械の力をかりて行ないます。	
		（取組日） 令和6年4月日 ～ 令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 耕した後は、代掻きです。近くで見ている子は、飛び跳ねてくる泥に驚きながら後ろに下がっていきます。	
		（取組日） 令和6年4月日 ～ 令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲ちゃんがしっかりと育つように神様にお願いをします。	
		（取組日） 令和6年4月日 ～ 令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲ちゃんがしっかりと育つように神様にお願いをします。	

３	取組概要	（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ドキドキしながら田んぼの中に足を入れて田植えをします。一歩一歩踏みしめながら歩きます。田植えを終えた子もこれからの子もみんなで応援しています。	
		（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲ちゃんが大きくなるまで、雑草を抜いたり水をたしたり色々なお仕事があります。	
		（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 気温が高くなると、水面にぷつぷつとした泡があらわれました。これは何？毎日毎日必死に取り除きました。	
		（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈後の田んぼは、すぐに緑の稲ちゃんが伸びてきます。子どもたちと観察していたら「きららに食べさせてあげれば～」という優しい声があがり、きららおやつタイムとなりました。	
		（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈後もおむすびになるまでは大変です。脱穀にもみすり、子どもたちの手でおこないます。	
		（取組日） 令和6年4月日　～　令和7年3月日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈後の藁で、歳神様を迎えるためのしめ縄づくり。正門、ポニーの小屋、うさぎ小屋など色々な場所でお正月準備です。	

第13号様式（第12条関係）

効果検証報告書

施　設　名	熊野幼稚園
教 育 理 念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

	事業の区分（5領域）	健康　・　人間関係　・　環境　・　言葉　・　表現
	1 事業名	生きる力を育成するための稲作活動
	2 事業概要	田んぼの活動
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況 教員の知識・技術だけでは足りないため、代掻き・苗の準備は外部に依頼し共に行う 田おこしから始まり、田植え、稲刈、脱穀、もみすり、その間の世話や管理は教職員が園児と共に行う
事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園児にとって稲作活動が効果的なものとなるためには、毎日の管理が大切である。教職員の知識では足りないところは専門家に指導をうけた。しかし、米作りがさかんな地域ではないため、米農家にはない問題が発生することが多々あった。子どもの活動の裏で、管理する者が、深い観察を欠かさず、変化を見逃さないことが重要である。引き続き不足している教職員の専門知識は次年度への課題としたい。膨らむ水道代も課題となる。
計画時	4 事業のねらい	園内にある田んぼがあり、毎日身近に触れながら観察や新たな発見ができるようにする 農耕儀礼から始まった行事（お正月・お月見・お祭り・お神輿など）の意義を知る 色々な発見の積み重ねから、自然の不思議さに気が付き探求していけるようにする
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・田んぼが毎日見れる場所にあることで、ちょっとした違いに気がつくようになってくる。 ・毎日みていることで、水の減り具合、苗の成長具合、水の中の生き物の様子、カラスの田んぼへの落とし物などの変化に気がつき色々なことを考えるようになることがわかった。 ・田植えや稲刈りの際はご神事を執り行うことで、食べ物に対する感謝の気持ちが育まれた。 ・今後は、子どもの気づきをさらに深めたり広げたりできる保育の構築に力を入れていきたい。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 田植えから稲刈・脱穀・もみすりまでの稲作活動を全て手作業で行う おむすびづくりで、一連の稲作活動を締めくくる 田植えの経験から感じること（泥の感触・不思議さ等）を深める。 田んぼの生き物等に興味を持ち、深める。 稲の成長から、長さの認識を深める。 動画を活用し、能動的な活動となるように促す（今年度は子供たちの発言を文字に起こす、テロップを入れることによって、それを子どもたちが振り返った時、より楽しく興味をもてるようにする）。
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・田植えから始まった稲作活動の締めくくりに、稲わらでしめ縄飾りをつくり、歳神様を迎えるための準備をした。日本の伝統文化、自然観を感じることができている。 ・稲の成長を、年齢に応じた取組で認識が深められるようにしたことで、他の場面でも大きさや長さを気にかけたり、数字に興味を示し経験から数字の大小を理解したりする姿がみられた。 ・次年度以降も子どもの言葉に耳を傾け、興味をもったことを深められるような取組を行い活動を深めていく。

計画時	6 環境構成	●戸外遊びの時に必ず目に入る位置に田んぼがある。 ●毎日見ている中で、大きくなっていることに気が付き自ら大きさを測ってみようとする。興味を示すまでに日数を要する子もいるが、園内に田んぼがあることで、ほぼ全員がその子なりの田んぼへの興味、かかわり方ができる。 ●アメンボ・カエルやちょうちょ、ヤゴやトンボ、バッタなどが生息し、探したり見つけた子が観察したりしている姿を見て、周囲の子もよい影響を受ける。 ●園内の田んぼを、毎日見ていくことで、じっくり見たり班化に気付いたりする力(観察眼)を養う。 ●稲刈・脱穀・もみすりは、すべて手作業で行う。時間を要するが、子ども同士の会話が生まれ、一定した作業のリズムが歌になって表現されることも期待できる。 ●全てを手作業で行うことを体験し、お米の大切さを体感する。 ●動画を撮影し、配信することで家庭での稲の話題がでるように促している。また、田植えした直後からの成長を振り返ることができる。
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・稲の育ちを視覚化し保育室に掲示したことで、田んぼを見ていた時の興味が持続した。 ・子どもの会話にあったリズムから、『もみすりの歌』ができあがった。 ・お米作りの過程を知るだけでなく身近でかかわることで、毎日食べるお米や食べ物への興味関心、感謝の心が育まれている。今後は、もっと食への興味を深めていきたい。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 稲が大きくなる喜びを感じ、観察眼が養われる。 稲の成長を目の当たりにし、田んぼの生き物と触れ合うことで、様々な発見をしたり感じたり考えたりできる。
事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 稲を観察することが日常となり、変化にも気付けるようになると、園内の他の場所でも観察することが上手になってきた。同じ田んぼを見ていても興味の向いている先は、葉っぱの色の変化、水の中の生き物、手をいれた時の水の温度、など様々であった。それぞれの発見を共感することで、さらに深く観察しようとする姿がみられた。ひとりひとりの興味に合わせて費やせる時間をどのようにつくりだすかが課題である。個々の興味を深めつつも、集団での学びもおろそかにしない保育の構築を次年度以降は考えていきたい。

8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・稲作活動から学べることは多岐にわたる。毎日の生活の中に田んぼがあることが重要であり、稲作活動が生活の一部になることで主体的にかかわる子どもの姿が見られた。天候を気にかける子もでてきた。ちょっとした子どもの気づきを理科的な知識につなげていくためには、教職員の学びは欠かせない。 ・どろんこになりながら自分の手で田植えをし、毎日観察をしたり世話をしたりすることで稲が育ち、お米が食べられるという経験や、稲作にまつわるご神事に参加することで、日本の伝統文化を肌で感じることができている。 ・不思議さを探求していけるような環境づくり、保育の在り方を引き続き考え深めていきたい。